

「みことばの分かち合い」 9月

担当司祭：野田正弘

暑い日差しの中、外出時にはマスクをしなければならない今年の夏は大変厳しいです。

しかし、マスクにこだわって熱中症になると元も子もありません。外を歩くときなどは、人と話さない限り、マスクを外した方がいいかもしれません。皆様の健康をいつもお祈りしております。さて、9月の福音から、み言葉への導入を書かせていただきました。「聖書と典礼」を手元に置いていただいて、主日の聖書箇所親しんでください。「暑さ寒さも彼岸まで」と言います。残暑を主とともに乗り越えていきましょう。

年間第23主日 9月6日

福音：マタイ18:15-20 言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる

今日の朗読は、キリスト者同士における兄弟的な思いやりと忠告、アドバイスに関する知恵の分かち合いです。私たちが本当にキリストに結ばれる共同体に属しているならば、私たちは互いに愛しあい、受け入れあうだけではなく、兄弟姉妹がつまずく時、勇気をもって正直にアドバイスするべきです。愛情をもっておこなう兄弟的なアドバイスは、キリスト者の本質的な部分であり、人々の間に平和と和解をもたらすものです。私たちが兄弟姉妹の過ちに対して愛をもってアドバイスできるように祈りましょう。

年間第24主日 9月13日

福音：マタイ18:21-35 あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい

「過ちは人間のわざ、ゆるしは神のわざ」ということわざを聞いたことがあるでしょうか。私たちは往々にしてこの後半部を心に留めていません。今日、神が私たちに対して、常に怒るに遅く、優しく、深く共感してくださっているように、私たちも互いにあわれみ深くゆるしあうように勧められます。憎悪、復讐、怒りは人間のわざかもしれませんが、キリスト者のわざではありません。神は私たちに、人間の低いレベルの本能を超えて、神のゆるしと共感のわざに加わるよう励ましておられます。神にあわれみの恵みを願いましょう。

年間第25主日 9月20日

福音：マタイ20:1-16 わたしの気前のよさをねたむのか

神の愛と寛容さに対して、素直に感謝できない時もあります。なぜあんな不真面目な人が楽に暮らし、こんなにまじめな私がこのような苦しい目に遭うのか。しかし、神様のやり方は私たちのやり方とは異なることを理解しなさいと今日の朗読は教えています。「友よ、私が寛大なことをなぜねたむのか」と主は言われます。私たちがイエスさまのように考え、他の人の幸福を素直に喜ぶことが出来ますように。そして私たちが神のしもべとして自分の為すべきことを他と比べることなく、為していくことが出来ますように。

年間第26主日 9月27日

福音：マタイ21:28-32 兄は考え直して出かけた。徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先

に神の国に入るだろう

「愛は言葉よりも行いによって、よく示すことが出来る」と聖イグナチオは言いました。今日の典礼は、この事実、つまり回心や責任、言葉よりも行ないが大事であることを描いています。

過ちを犯した他者を指さす必要はありませんし、また果たすことが出来ない誓いをする必要ありません。神は忍耐強く、私たちが神のもとに帰ってくること、そして神の言葉に従って行動することを待っておられます。私たちがイエスさまの呼びかけに喜びをもって応え、神のみ旨にいつも「はい」と応えることが出来るように、ミサの中で祈りましょう。